

初の女王に輝いた新体操の少年女子 4日午後、千葉市中  
央区の千葉ポートアリーナ



# 5競技7種目でV



## 千葉国体

第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」第10日は4日、県内各地で21競技が行われた。すでに天皇杯、皇后杯獲得を決めている本県は、この日も5競技7種目で優勝した。5日は陸上など3競技と閉会式が行われ、11日間の熱戦の幕を閉じる。

陸上は成年男子110メートル障害の田野中輔（富士通）、成年女子1万メートル競歩の大利久美（富士通）が優勝した。成年3種目が決勝に進出したボクシングは、ライトフライ級の林田太郎（駒大）とバンタム級の戸部洋平（鴨川市役所）が頂点に立った。

新体操少年女子は前日の個人の貯金を生かして優勝。バドミントン成年男子は決勝で東京を下した。剣道は成年男子も勝ち、成年男女、少年男女の4種別完全制覇を果たした。山岳では少年ボルダリングの羽鎌田直人（幕張総合高）、村井隆一（船橋東高）がリードと合わせ2冠に輝いた。

（関連記事6、7、8面）



初 V



個人と団体競技を合わせた総合得点で都道府県順位

マ「龍馬伝」のテーマソングに合わせ、5人が2分半の演技に挑戦した。

団体は、NHK大河ドラマ

ゆ渡、調をイメーjingに甘ん

ダイナミックな躍動を披露。団体では4位に甘んじはたが、前日の「野金」で逃げ切り、初の女王に輝いた。

団体競技から加わった主将の渡辺奈々（昭和学院高）は「団体では悔しかったが、全員で力と点数を合わせて

勝てた。チーム力のすばしけさを感じた」と振り返り、小林千真里（同）は「応援を力に変えて頑張った」、江田友莉亜（同）は「多くの人に支えられ、踊り切れたことがうれしい」と笑顔を見せた。

一方で、三上真穂（同）は「絶対失敗しない強い演技をしなければ」と課題を語り、宮本枝実（流通経大柏高）は「来年も出場で

きたら、団体もノミスでやり切りたい」と新たな抱負も。

塩屋恵美子監督（昭和学院高教）は「周りを感じて一体になること、仲間と自分を信じることの大切さを教えてきた。あきらめずに勝利をつかんだ選手を誇りに思う」と激励。チーム千葉は連覇に向けてさらに輝き出す決意だ。

寝たきりから奇跡の復活

江田

新体操少年女子の個人  
フープで1位となり、団  
体競技にも出場した本郷  
の江田友莉亜は6月下旬

の国体予選前日、首や背中を痛めて倒れ、8月中旬に練習に復帰するまで「ドクターストップでほとんど寝たきり」の状態だったという。

「国体はもちろん新体をかみしめていた。

「国体はもちろん新体

をかみしめていた。

団体競技で大技を披露し、初優勝した新体操の少年女子＝千葉ポートアリーナ

2010年(平成22年)10月5日(火曜日)